

稲雲

第 26 号

発行
OB 会事務局

目次

- 其の一 2000年レース結果
- 其の二 会計報告
- 其の三 OB会事務局からのお知らせ

^^^ 2000年のレース結果 ^^^

現役から、今年のレース結果の報告がありました。以下に掲載します。

関東工科系レガッタの試合報告

今回は、5月3日に行われた工科系レガッタの報告をさせていただきます。
結果から先に申し上げますと、去年に引き続き今年も東工大を破り、見事2連覇を成し遂げることができました。

工科系レガッタ・エイト				
レーン		500m	1000m	順位
2	早大理工	1'34"71	3'13"85	1
3	東京商船大	1'37"33	3'17"44	3
4	東京工業大	1'37"00	3'14"92	2

以下にその詳細を報告します。

天気は、試合時刻の午後3時55分に曇りで、若干逆風でした。我が理工漕艇部からはエイト1艇が出場し、東工大、東京商船大との3艇でレースを行いました。スタートのスタリキ後に2位の東工大に半艇身の差をつけました。コンスタントに入ると東工大、商船大をじりじりと引き離し500m過ぎには東工大との差は1艇身となりました。このままの差を保ってゴールすると思いましたが、ゴール直前に東工大のラストスパ

ートで追い上げられ、艇身差でのひやりとさせられる勝利でした。後半の我々のタイムは1:38と前半の1:34に比べ明らかにタイム落ちが見られることから分かるように、東工大の追い上げが力強かつたのではなく、我々のクルーの体力不足が原因と思われる。工科系2連覇を成し遂げることができましたが、今後に課題を残す勝利となりました。

大学院 理工学研究科
建設工学専攻土木専門分野修士1年
水本 崇 記

東日本大学選手権の試合報告

6月17日(土)、18日(日)に行われた東日本大学選手権についての試合報告をさせていただきます。
今回、理工漕艇部からはエイト1艇、スカル1艇(大鶴)が出場しました。エントリ数はエイトが7艇、スカルが24艇でした。結果としては、エイトは優勝、スカルは6位という良い結果を残すことができました。以下、1日目、2日目とタイムを参考にしながら振り返ってみたいと思います。

17日(土) 曇りのち小雨、風もほとんどなくコンディションは良好

シングルスカル 予選・敗者復活戦

大鶴(3年)はつい1ヶ月前からスカルに乗って練習を始めたばかりで、今回の試合がスカルとしては初試合となりました。順風の中での試合となりましたが、予選は前半からのリードを保ってゴールすることができました。二日目の練習(500m)で出した1'52"を更新するタイムを出すことができ、全体順位も4位という好成績でした。
同じ日に行われた準決では、前半2位ながらも後半追い上げられ、ゴール直前で逆転され惜しくも4位でした。これは練習を始めてまだ1ヶ月ということと、1日に2本レースをする体力が不足していたことが原因だと思われます。結果的に3位までが決勝に進むことができたことを考えると、非常に惜しいレースとなりました。

シングルスカル 予選				
レーン		500m	1000m	順位
1	成城大	1'54"14	3'54"46	3
2	防衛大A	2'04"60	4'10"36	4
3	成蹊大	1'55"18	3'54"17	2
4	東京医歯大B	2'05"61	4'16"65	5
5	早大理工(大鶴)	1'49"40	3'47"21	1

シングルスカル 準決勝				
レーン		500m	1000m	順位
1	東京経済大	1'55"49	3'51"35	3
2	一橋大	1'52"07	3'48"07	2
3	防衛大B	1'52"30	3'47"62	1
4	早大理工(大鶴)	1'53"16	3'52"91	4
5	立教大	1'58"97	4'01"96	5

エイト 予選

エイトは約1ヶ月前の工科系レガッタで後半東工大に追い上げられたという苦い経験があったので、今回は500m付近でロングスパートを入れ東工大を引き離す、ということを試合前のミーティングで各クルーが再確認していました。しかし、レースは東工大と東大Bが棄権し、防衛大との2艇レースになりました。結果としては、前半(1:33"68)よりも、後半(1:32"62)の方が速いタイムを出すことができたものの、これはスタート後の刻みで普段よりも艇のスピードが出なかつたこと(朝練のスタ付き500mは1:29)による前半タイムの伸び悩みが一番の理由だと思われます。

エイト 予選				
レーン		500m	1000m	順位
2	早大理工	1'33"68	3'06"60	1
3	東京工業大	棄権		
4	東京大B	棄権		
5	防衛大	1'39"37	3'18"83	2

18日(日) 晴れ、若干逆風

シングルスカル 順位決定戦

若干の逆風にもかかわらず、前半から終始リードしそのままゴールするという展開でした。全体順位としては6位という成績を残すことができました。今回の試合は大鶴にとって非常にいい経験になったこととおもいます。

シングルスカル 6~10位決定戦				
レーン		500m	1000m	順位
1	立教大	1'55"64	3'59"85	3
2	東京大B	1'56"65	4'00"06	4
3	早大理工(大鶴)	1'53"80	3'54"98	1
4	学習院大	1'54"88	3'57"43	2
5	早大B	1'58"68	4'03"24	5

エイト 決勝

スタートのスタリキ後からじりじりと引き離し、コンスタントの10本目までには、他艇に半艇身差をつけ有利な展開となりました。500m通過時には2位の東大に1艇身のリードをつけ、試合を決めました。500m付近で2枚上げを行い、38でのロングスパートを入れましたが、あまり艇速が伸びずにゴールを迎えました。差は500mの時と同じく1艇身差でした。
このレースでの最大の収穫は、スタートのセトルダウンがうまくいったことです。スタリキの艇速をいかにコンスタントにつなげられるかというのが、春からの課題でした。スタリキ、ハイピッチ、コンスタントへと切り替わりがスムーズに行え、ベストのスタートを切ることができました。

エイト		決勝		順位
レーン		500m	1000m	
2	防衛大	1'41"78	3'23"61	5
3	京都大	1'36"94	3'17"36	3
4	早大理工	1'33"77	3'10"64	1
5	東京大A	1'36"66	3'13"31	2
6	一橋大B	1'38"42	3'20"59	4

今回の試合は、我が漕艇部としてはエイトが優勝スカルも6位という好結果を残すことができました。現時点で持っている力を存分に押し出したように思います。また、部員にとっても、今後に向けてのいい励みになったと思います。

大学院 理工学研究科
建設工学専攻土木専門分野修士1年
水本 崇 記

全日本軽量級選手権の試合報告

6月30日(金) 快晴、逆風
エイト 予選

今シーズンはじめての2000mレースで、夏のインカレに向けて、つなげられる内容が欲しいレースでした。日頃の練習では、スタートのセトルダウンには自信があったものの、第4クォーターからのスパートの入りに不安がありました。相手がどのように出てきても、コンスタントを同じリズムで刻むことができるかが課題となっており、途中に入れるイベントで確実に艇速を出せるかが結果を左右すると考えていました。レースでは、スタートでコンスタントにセトルダウンしたときには一橋大に3分の1艇身出られ、500mまでは差は1艇身となりました。その後、阪大にも出

られ、差が徐々に開く苦しい試合となりました。最後には住友金属にも1艇身離され、結果は4位となりました。

エイト		予選				順位
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	
1	住友金属鉄っ子	1'33"50	3'14"24	4'58"16	6'32"84	3
2	防衛大	1'40"10	3'26"72	5'18"59	7'06"61	5
3	大阪大	1'34"00	3'11"05	4'49"46	6'27"09	2
4	一橋大	1'31"46	3'07"91	4'47"59	6'23"61	1
5	早大理工	1'34"53	3'14"44	4'57"51	6'37"88	4

7月1日(土) 快晴、逆風
午前中から、夏を思わせる暑さでした。

シングルスカル 敗者復活戦

この敗復では、5艇中2艇が準決勝に進むことができました。大鶴の予選タイムはこの組の中では4位だったので、スタートから積極的なレース展開を行いました。500mのタイムは予選に比べて約5秒速くそのときの順位は3位でした。しかし、1000m地点では4位となりそのままゴールする形となりました。ただ、タイム自体は予選より約3秒速いタイムでした。これはスタートから積極的に行ったことが理由だと思います。

今後インカレに向けては、コンスタントに長い距離を漕げる力をつけていくことが課題だと思います。

シングルスカル		敗復				順位
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	
1	東京外語大	2'13"32	4'52"71	7'31"40	10'02"57	5
2	法政大	2'02"54	4'04"36	6'03"81	8'11"36	3
3	日本大	1'50"51	3'47"92	5'46"50	7'50"04	1
4	新潟大	1'57"48	3'57"74	5'57"25	8'02"14	2
5	早大理工 (大鶴)	1'57"67	4'01"47	6'07"63	8'19"99	4

エイト 敗者復活戦

1位が決勝に進み、2、3位が順位決定に進むことができる試合でした。前日の予選では惨敗を喫したため、各クルーがもうあとはないという背水の陣で試合に臨みました。予選で十秒差で負けた大阪大学ともう一度あたっているため、打倒大阪大学を念頭に置き井熊監督、青木助監督が見守るなか、アップは順調に行うことができました。

レース展開としては、500m通過時は大阪大と半艇身差の3位、1000m通過時は約1艇身差の3位、後半の第3クォーターからは徐々に引き離され、第4クォーターでは北大にも逆転されて4位という結果に終わりました。

エイト		敗復				順位
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	
1	北海道大	1'36"93	3'20"06	5'02"66	6'42"06	3
2	滋賀大経済	1'33"91	3'17"18	4'57"02	6'36"08	2
3	大阪大	1'33"23	3'14"67	4'54"17	6'32"92	1
4	早大理工	1'35"79	3'17"84	5'02"02	6'45"69	4

前日の予選でもそうでしたが、どうしても後半第3クォーターからのタイム落ちが目立ち、他大学との体力面の格差を露呈してしまうレースとなりました。後半の体力強化という課題を強く意識し、エルゴ、陸上レに取り組んでいかなければ2ヶ月後のインカレではいい結果が得られないと痛感させられた試合でした。

大学院 理工学研究科
建設工学専攻土木専門分野修士1年
水本 崇 記

東日本選手権の試合報告

8月12日、13日に行われた、東日本選手権の試合報告をいたします。

8月12日(土) 快晴 午前中：無風、午後：逆風

シングルスカル 大鶴 予選・準決勝

予選は1艇上がりとそれ以外全体で上位タイム2位まで準決勝に進むことができました。準決勝は2艇上がりでした。

午前中の予選のレースでは、無風の中で3.5mというタイムを出し、割と余裕を残しつつ午後の準決勝に進みました。

午後の準決勝レースは午前中と違い逆風でした。このレースでは、ラストの2枚上げでしかけるタイムミングが送れ、ゴール手前で抜かれました。予選タイムは全体で2位で、翌日の決勝に期待を持たせる順位でした。

シングルスカル		予選		順位
レーン		500m	1000m	
1	本郷高校	1'55"21	3'54"06	2
2	早大理工(大鶴)	1'54"60	3'51"74	1
3	都立大	2'04"28	4'09"54	3
4	水産大	2'06"62	4'14"99	4

シングルスカル		準決勝		順位
レーン		500m	1000m	
1	デイトナRC	2'05"18	4'20"35	4
2	慶応湘南藤沢	2'06"45	4'23"10	5
3	早大理工(大鶴)	2'01"65	4'10"35	2
4	成蹊大学	2'02"60	4'14"38	3
5	茨城大学	2'04"12	4'10"16	1

シングルスカル		予選		順位
レーン		500m	1000m	
2	茨城大学	1'54"91	3'53"19	2
3	学習院大C	2'21"91	4'37"97	5
4	東京大B	1'57"74	3'56"84	3
5	学習院大A	1'55"44	3'50"92	1
6	早大理工(森)	1'58"54	4'01"36	4

エイト 予選

予選は1艇上がりでそれ以外の全体タイム上位2位までが決勝に進めるレースでした。

レース展開としては早大Aを何とかして前半500mまでに押さえ、そのまま逃げ切ろうという作戦でした。逆風・逆流の中、スタートはスタリキ、ハイピッチと早大Aについて行きましたが、コンスタントへの落し際から徐々に差を広げられたので、すかさず2枚上げのコールを入れ、500m地点で早大Aとの差は約3m艇身の2位でした。その後、さらに2枚上げのコールを入れ詰め寄ろうとしたところ、このコールにクルー全員が反応できなかったためか、ハラキリをしてしまいい、艇が完全に止まってしまいました。その後、すぐに立て直して他の艇を追い上げ、2位でゴールしました。

ミーティングではハラキリ云々よりも、途中まで早大Aの艇を横に感じながら漕ぐことができたので、スタートやコンスタントの落とし際の減速を少なくしていけば勝てない相手ではないなどの前向きなコメントが目立ちました。

エイト		予選		順位
レーン		500m	1000m	
2	早稲田大B	1'39"61	3'22"35	2
3	葵水会	1'45"92	3'38"27	4
4	慶応B	棄権		
5	早稲田大A	1'33"79	3'08"70	1
6	早大理工	1'36"80	3'29"21	3

8月13日(日) 小雨 午前中：無風、午後：逆風

シングルスカル 森 順位決定戦

ゴール直前まで森を含め3艇が競り合いうレースでしたが、最後は森が頭1つ抜け出して1位でゴールしました。タイムも3.5mと4分をきるタイムで、本人も納得しているようでした。彼はまだ2年生なので、これからの上達が楽しみです。

シングルスカル		決勝		順位
レーン		500m	1000m	
1	成蹊大	2'06"10	4'15"28	5
2	学習院大A	2'07"19	4'15"69	3
3	茨城大	2'05"75	4'14"62	1
4	早大理工(大鶴)	2'05"36	4'13"59	2
5	本郷高校	2'07"51	4'19"37	4

シングルスカル 大鶴 決勝

スタートでぐらついてしまい飛び出せなかったものの、中盤から追い上げ、そのままゴール直前まで茨城大のクルーとのデッドヒートとなりました。大鶴がゴール直前でその茨城大かわし、約半艇身の差をつけて1位でゴールしました。見事スカル2部での優勝となりました。

エイト 決勝

前日と同じく逆風、逆流の中でのレースとなりました。最初東大と東北大に出られ、500m地点では3位でした。その後東大を追い上げましたが、少し及ばず3位でした。逆風の中大きくシートを入れ上体を使えなかったためか肩飛ばしできていず、力強いストロークが引けていませんでした。前日の予選でもそうでしたが、いかにコンスタントの落とし際の減速を抑え、コンスタントをメリハリをつけたリズムで漕ぐかが今後の課題です。

シングルスカル 森 予選
2年生の森はエイトに乗っていながら工科系直前に腰を痛め、それ以来スカルで練習を行ってきたため、この試合が彼にとって今季初のレースでした。予選では、4位と残念ながら準決勝に進むことはできませんでしたが、4.0mと、練習時のタイムを7秒も更新ができた本人も自信を持ってたように思います。

シングルスカル		順位決定		順位
レーン		500m	1000m	
1	筑波大付属高	2'00"63	4'10"30	5
2	東京商船大	1'58"49	3'59"98	3
3	早大理工(森)	1'55"73	3'59"98	1
4	セブンエイトRC	1'54"89	3'59"60	2
5	東京理科大	1'56"30	4'03"27	4

エイト		順位決定		
レーン		500m	1000m	順位
2	東京大	1'34"24	3'14"78	2
3	東北大	1'34"04	3'12"07	1
4	早稲田大B	1'37"49	3'20"74	5
5	東京経済大	1'37"28	3'48"85	4
6	早大理工	1'35"88	3'15"84	3

大学院 理工学研究科
建設工学専攻土木専門分野修士1年
水本 崇 記

全日本大学選手権の試合結果

8月24日(木) 予選、逆風
8月25日(金) 敗復、逆風
エイト 予選落ち
シングルスカル(大鶴) 予選落ち

シングルスカル		予選				
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	順位
1	茨城大	2'09"52	4'20"45	6'36"06	8'47"02	5
2	龍谷大	1'55"93	3'55"14	5'57"31	7'58"18	2
3	東京都立大	2'09"30	4'21"32	6'34"82	8'43"27	4
4	早大理工(大鶴)	1'58"18	3'57"51	6'02"93	8'07"09	3
5	立教大	1'54"99	3'51"24	5'50"36	7'44"54	1

シングルスカル		敗復				
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	順位
2	秋田大	2'04"94	4'20"28	6'28"65	8'33"62	3
3	千葉大	1'51"88	3'50"40	5'49"91	7'55"28	1
4	早大理工(大鶴)	1'54"74	3'54"17	5'54"31	7'57"56	2
5	東京都立大	2'05"18	4'18"62	6'26"64	8'34"53	4

エイト		予選				
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	順位
1	日本大	1'25"05	3'01"50	4'34"28	6'06"26	1
2	一橋大	1'33"06	3'13"60	4'54"85	6'35"91	4
3	東京大	1'33"42	3'11"29	4'50"39	6'27"21	2
4	大阪市立大	1'38"85	3'22"21	5'10"60	7'00"46	6
5	近畿大	1'36"22	3'16"34	4'56"30	6'39"37	5
4	早大理工	1'34"35	3'13"43	4'53"74	6'31"76	3

エイト		敗復				
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	順位
1	大阪工業大	1'38"55	3'26"54	5'15"91	7'02"15	5
2	鹿児島大	1'27"84	3'04"81	4'46"00	6'27"40	4
3	関西大	1'32"57	3'06"54	4'46"99	6'23"66	2
4	早大理工	1'31"41	3'09"08	4'47"77	6'26"88	3
5	東京工業大	1'29"32	3'00"95	4'39"66	6'16"04	1

シングルスカル		敗復				
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	順位
2	日本医大B	2'01"78	4'02"61	6'16"68	8'29"15	6
3	新潟大	1'51"60	3'44"16	5'49"76	7'56"19	4
4	京都大B	1'49"78	3'40"74	5'41"98	7'42"17	2
5	青学大	1'52"24	3'43"14	5'40"03	7'33"22	1
6	北海道大B	1'51"95	3'45"48	5'49"41	7'46"36	3
7	早大理工(森)	1'54"12	3'49"94	5'55"71	7'56"49	5
8	大同工業大	2'03"04	4'14"71	6'36"53	8'41"86	7

シングルスカル		予選				
レーン		500m	1000m	1500m	2000m	順位
2	関電美浜	1'52"23	3'47"44	5'53"99	7'54"36	3
3	日本体育大A	1'47"24	3'35"53	5'32"42	7'26"48	1
4	日本医大A	1'54"07	3'48"89	5'52"64	7'52"45	2
5	金沢大	1'59"12	4'03"51	6'17"74	8'28"97	6
6	松山大B	2'04"92	4'13"76	6'28"53	8'40"41	7
7	早大理工(森)	1'56"86	3'55"19	5'59"92	8'06"58	5
8	愛媛大	1'56"59	3'56"35	6'03"48	8'05"36	4

全日本新人選手権の試合結果
10月12日(木) 予選 敗復 順風
シングルスカル(森) 予選落ち

東日本新人選手権の試合報告

我が部からは、シングルスカル(森、2年)とフォア(1年)が出場しました。フォアは総合3位、シングルスカルは総合8位でした。

シングルスカル(森)
予選で、森はスタート250m付近で他艇に1艇身差をつけることが出来ました。その後モリドを上げ、2位に30m近くの大差をつけてのゴールとなりました。準決勝へと進みました。

準決勝では、運悪く、予選総合タイムが2、3、4位の相手がいる組でした。3位までに入らないと決勝進出が出来ないので、森は最初から飛ばしていきました。500m通過時は4位でしたが、3位とは1艇身差でまだまだ逆転の可能性がある位置にいました。しかし、後半の500mで艇速が落ちて差を広げられ、結局4位でゴールしました。惜しくも、決勝進出は出来ませんでした。

シングルスカル		予選		
レーン		500m	1000m	順位
2	早大学院	2'01"08	4'09"81	3
3	早大理工(森)	1'53"70	3'55"91	1
4	東京外語大	2'00"44	4'18"61	4
5	本郷高校	2'18"50	4'07"56	2

シングルスカル		準決勝		
レーン		500m	1000m	順位
1	青山学院大	1'52"95	3'49"57	2
2	早大理工(森)	1'56"42	4'01"30	4
3	防衛大	1'49"11	3'47"16	1
4	日本医大	1'51"32	3'50"48	3
5	本郷高校	1'58"20	4'04"85	5

順位決定は、森にとって今季最後のレースとなりました。ジュニアや東日本の予選 準決では同じ実力の相手に競り負けているケースが多かったので、この順位決定では同レベルの相手に絶対に競り負けないことを目標としました。

森は最初から積極的に攻め、中盤後半は3位グループに1艇身差をつける2位でしたが、ゴール直前でものすごいスパートをさせる千葉大に逆転され3位でした。総合成績としては8位でした。

森は、ジュニア、東日本新人と満足いく結果を残すことが出来ませんでした。この1ヶ月のジュニア合宿では、技術的にも上達し、また生活面でも2年生として1年生のよい手本となっていました。

シングルスカル		順位決定		
レーン		500m	1000m	順位
2	早大理工(森)	不明	3'56	3
3	千葉大	不明	3'54	2
4	東京都立大	不明	3'51	1
5	本郷高校	不明	不明	4

舵手付きフォア
1年生のフォアは、予選ではスタート直後から他艇をグングンと引き離し、3:51というタイムを出して1位でゴールイン、予選総合でも1位という、好成績で決勝に進みました。

決勝では、500mは埼玉大に次ぐ2位で通過しましたが、その後埼玉大をさし1位となりました。しかし、ゴール手前50mで東京外大に逆転され、その直後にハラキリしてしまい3位でゴールしました。

タイムは3:53.3位入賞でした。

まだ1年生なのでハラキリは仕方がないことですが、合宿入りから1ヶ月間の練習で飛躍的にタイムを伸ばし、結果的に3:52という好タイムを出したことは大変驚いています。

舵手付きフォア		予選		
レーン		500m	1000m	順位
1	東京大A	1'51"76	3'53"99	3
2	北里医大	2'08"10	4'19"20	5
3	埼玉大	1'50"04	3'47"27	2
4	成蹊大	1'54"95	3'55"25	4
5	早大理工	1'44"64	3'41"78	1

舵手付きフォア		決勝		
レーン		500m	1000m	順位
1	埼玉大	1'42"86	3'35"64	4
2	筑波大	1'45"69	3'32"56	2
3	早大理工	1'43"00	3'32"84	3
4	東京外語大	1'44"89	3'31"13	2
5	成城大	1'47"89	3'38"25	5

大学院 理工学研究科
建設工学専攻土木専門分野修士1年
水本 崇 記

決算報告書		期間 99/11 ~ 00/10	(締め日 2000/10/19)
支出		収入	
通信費	¥136,785	99年OB総会残金	¥47,629
会費自動振替経費	¥57,727	前年度繰り越し	¥334,713
固定資産税	¥24,000	会費	¥840,000
管理費	¥148,200	銀行利息	¥393
光熱費	¥19,952	雑収入	¥1,710
雑費	¥4,296		
残金	¥833,485		
計	¥1,224,445	計	¥1,224,445

通信費	OB総会案内、口座引き落とし連絡の印刷費、郵送費
会費自動振替経費	OB会費預金口座自動振替における手数料、消費税、ソフトバージョンアップ費用
固定資産税	戸田マンション税金
管理費	戸田マンション管理費
光熱費	戸田マンション光熱費
雑費	銀行振り込み手数料等

^^^ 2000年会計報告 vvv
会計より、2000年の会計報告をいたします。

注 借入金返却について
熊谷氏、荒木氏、柳瀬氏、宇田川氏、小林氏よりの借入金については、前年度の会計に計上されているので今年度の会計には記載しない。しかしまだ未払いである。

OB会会計
94年3月卒 小林卓也 記

^^^ OB会事務局からのお知らせ vvv
現役合宿所移転のお知らせ
現役より合宿所移転の連絡がありました。以下に連絡内容を掲載します。

道案内
戸田駅の改札を出て東口(右側)に出て下さい。すぐ前の道路を右に進みます。丁度新宿方面に線路沿いに進むこととなります。すると丁字路に出ます。向かい居酒屋「一源」があります。道路を渡り、左に進みます。とみん銀行のわきの道を右に入ると、「中島工務店」の看板が見え、そのアパートの103号室(一階の一番奥)が現在の合宿所です。普通の、見た目がぼろいアパートです。

住所
〒335-0021
埼玉県戸田市新曽234 中島荘103号
電話番号は今まで通り、048-446-0368

ホームページのお知らせ
IT時代の波に乗り遅れないよう、理工漕艇部OB会でもインターネットのホームページを開設いたします。

ホームページのアドレスは、
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~hekisui/>

です。
インターネットに接続可能な方は是非アクセスしてみてください。現役の活動状況や、OB会からのお知らせの掲示板として使っていく予定です。

投書箱のお知らせ
稲雲編集部では、OB会の皆様の「意見、投稿を募集したい」と考えておりますが、今までは決まった窓口がありませんでした。
手始めに、電子メールでの受付窓口を用意させていただきますので、「ご利用下さい」。
E-mailアドレスは
inagumo@mui.biglobe.ne.jp
です。